

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスプレゼンテーションⅡ		（NGM10P）
講義名（コード）	ビジネスプレゼンテーションⅡ		（NGM10PX）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	堀内 美穂	時間数	30
成績評価教員	堀内 美穂	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	パワーポイントを使いながら人前で自分の意見を発表する事ができる。見ている人がわかりやすいビジュアルツールを作成しプレゼンテーションを行う。様々な場面のビジネスシーンで役立てることができる。
全体の内容と概要	作成したPPTを使用し何度もプレゼンテーション練習を行う。PPTを作成する事だけでなく、正しい日本語を使って分かりやすい説明を行えるように話し方の練習もする。
授業時間外の学修	授業内だけでは発表準備が間に合わないため、家での練習も必要になる。
履修上の注意事項等	特になし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	プレゼンテーションとは何かがわかる	プレゼンテーションと何か。どんな場面でどのように使用するのか。例を見ながら正しいプレゼンテーションの方法を学ぶ。
2	プレゼンテーションをする前の準備の方法がわかる。	プレゼンテーション作成のステップ、注意する事などを学ぶ。PPTの使い方を学ぶ。
3	簡単なPPTを作成することができる。	写真を使った自己紹介PPTを作成する。
4	写真を使ったプレゼンができる。	PPTを使って自己紹介をする。
5	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンとは何かがわかる。	通信販売のプロモーションの方法とは何か。いくつかの動画を見て方法を見比べてみる。
6	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンができる。	身近な商品を使ってプロモーションをしてみる。
7	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンができる。	PPTを使って顧客を獲得する新商品のプロモーションを考える。
8	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンができる。	新商品のプロモーションを発表する。
9	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンができる。	新商品のプロモーションを発表する。
10	グラフの作成ができる。	簡単なデータをもとに違う種類のグラフを作成する。
11	国際問題についての現状を理解することができる。	自分の興味のある現在起こっている国際問題について調べ、現状・問題の原因についてまとめる。
12	国際問題についての現状を理解することができる。	問題についてのデータを検索し、グラフ等を使ってわかりやすくPPTにまとめる。自分の意見を交えた問題の解決法を考える。
13	国際問題についてPPTを使い発表を行うことができる。	作成したPPTを使い発表練習を行う。
14	まとめと解説	国際問題についてのまとめをし発表を行う。
15	まとめと解説	国際問題についてのまとめをし発表を行う。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス英語 I Business English		（ NKT13D ）
講義名（コード）	ビジネス英語 I B		（ NKT13DB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース / 英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	DavidA. Robbins	時間数	30
成績評価教員	DavidA. Robbins	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	For students to learn how to communicate in a business setting.
全体の内容と概要	Using the text as a work book, listening to lectures about business, and discussion times to further understanding.
授業時間外の学修	I don't expect them to do homework, but they will have the option of doing research out of class to improve their knowledge. I will provide them time in class to research when needed.
履修上の注意事項等	During lecture and discussion times, they will be expected to leave their phones on top of their desks. During research and study times they will be allowed to use their smart phones as study tools.

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Go over syllabus, discover English ability. First meeting communication	Orientation and introduction. English for Socialization: Chapter 4, Part 1
2	Learning to talk about personal lifestyle	Ability to talk about personal life: English for Socialization: Chapter 4, Part 5
3	Learn how to make a phone call	Learning English for the telephone: English for Socialization: Chapter 1, Part 1
4	Learn to organize your topics to discuss	Topic organization: English for Socialization: Chapter 1, Part 6
5	Learn to put together a good business letter	Writing for Business,: English for Socialization: Chapter 6, Part 1
6	Learning about write in business	Correspondence phrases for different situations: English for Socialization: Chapter 6, Part 4
7	Learning correct phrases in different situations	Writing Model Letters: English for Socialization: Chapter 6, Part 5
8	Learning good meeting habits	What makes a good meeting: English for Socialization: Chapter 3, Part 1
9	Using business meeting terms correctly	Meetings and key terms that are used: English for Socialization: Chapter 3, Part 2
10	Learning proper phrases in a discussion in a meeting	Opinions in meetings: English for Socialization: Chapter 3, Part 4
11	Understanding a good presentation	Steps for giving a good presentation: English for Socialization: Chapter 2, Part 1
12	Preparing a presentation for your listeners	Organizing a presentaton: English for Socialization: Chapter 2, Part 2
13	Understanding a successful negotiation	Negotiations: English for Socialization: Chapter 5, Part 1 and Test Review
14		Test
15		Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Communicating in Business English, Compass Publishing
参考文献・資料等	N/A
備考	N/A

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス英語 I		（ NKT13D ）
講義名（コード）	ビジネス英語ⅢA		（ NKT22IA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース / 英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	PIERCE WILLIAM TROY	時間数	30
成績評価教員	PIERCE WILLIAM TROY	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	To better understand business language and concepts.
全体の内容と概要	Textbook work, group and individual projects.
授業時間外の学修	Research and composition for projects and writing assignments.
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Can discuss documents and correspondence	Textbook Unit 5. Roleplay conversations about documents, correspondences, deadlines, and responsibilities.
2	Can use past simple language.	Textbook Unit 5. Use past simple language to discuss current and recent activities.
3	Can solve problems and communicate apologies.	Textbook Unit 5. Roleplay discussions of problems, solutions, and apologies.
4	Can discuss social media and networking.	Textbook Unit 6. Class discussion about the relationship between social media and business in today's world.
5	Can describe past events.	Textbook Unit 6. Writing descriptions of past activities and experiences.
6	Can handle small talk and conversations.	Textbook Unit 6. Large group conversation activity.
7	Can discuss departments and responsibilities.	Textbook Unit 7. Group project, company structure and organization.
8	Can describe position of place and movement.	Textbook Unit 7. Giving directions in conversation and email.
9	Can leave phone messages.	Textbook Unit 7. Practice leaving phone messages.
10	Can discuss employment.	Textbook Unit 8. Couple discussions about future employment plans.
11	Can communicate time.	Textbook Unit 8. Practice communicating and keeping schedules.
12	Can arrange meetings and events.	Textbook Unit 8. Group meeting project.
13	Exam prep.	Final exam preparation and review.
14	Final exam.	Final exam.
15	Exam feedback.	Final exam feedback and Q&A.

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	Textbook, project materials.
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス英語Ⅱ		（NKT13E）
講義名（コード）	ビジネス英語ⅣC		（NKT22JC）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ビジネス英語特有の表現、語彙を習得し、ビジネスシーンで使える英語を身につける。
全体の内容と概要	リスニング、スピーキング、ライティングの練習を中心にコミュニケーション能力向上を図る。
授業時間外の学修	新しい語彙・フレーズの復習をし、会話文の音読練習をする。
履修上の注意事項等	クラスアクティビティに積極的に参加することが求められます。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	【海外出張】ホテルでのやり取りができるようになる	ホテルでのやり取りをペアで練習する。
2	【海外出張】レストランで注文ができるようになる	レストランでの注文の仕方をペアで練習する。
3	【海外出張】交通機関の利用・食事の買い出し等ができるようになる	交通機関の利用・食事の買い出し等の仕方をペアで練習する。
4	1～3回目 【海外出張】 の復習	様々な場面を想定して練習する。
5	【打ち合わせ】商談を行えるようになる	商談の仕方をペアで練習する。
6	【打ち合わせ】お客様の予約を取れるようになる	お客様の予約の取り方をペアで練習する。
7	同僚とスモールトークすることができるようになる	同僚とスモールトークできるように練習する。
8	5～7回目の復習	様々な場面を想定して練習する。
9	ビジネスメールへの応答ができるようになる	ビジネスメールの書き方を学ぶ。
10	Eメールの作成と返信ができるようになる	ビジネスメールの書き方を学ぶ。
11	同僚へのもてなしができるようになる	同僚のもてなし方をペアで練習する。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Business as Usual
参考文献・資料等	英会話フレーズ大特訓ビジネス編、ゼロからスタートしごとの英会話、本当に必要な社内英語
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	マーケティング基礎Ⅱ		（ NKT14A ）
講義名（コード）	マーケティング基礎ⅡF		（ NKT14AF ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	尾崎 樹里子	時間数	30
成績評価教員	尾崎 樹里子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	・企業経営におけるマーケティングの位置づけを理解する。 ・マーケティングの専門用語、ツールに慣れ、デジタルマーケティング授業において本質を理解して取り組める
全体の内容と概要	・マーケティングの本質を理解した上で、マーケティング活動の要素を学ぶ ・身近な環境の中でマーケティングの要素を探求し、実習を通じて知識の理解を深める
授業時間外の学修	・自身や、家族、友人の購買行動に関心を持つ ・企業が発信している情報に関心を持ち、マーケティングの要素を発見する
履修上の注意事項等	・実習では積極的に行動し、チームで協力し合って活動する

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	前期を振り返り、マーケティングの基礎の理解を深める	・課題図書の感想の発表 ・前期授業の振り返り
2	企業経営の中のマーケティングの役割を理解できる	・企業経営の中のマーケティング ・事業戦略における分析手法（SWOT、3C、5F）
3	製品ライフサイクルと生き残るための戦略を理解できる	・製品ライフサイクルと競争戦略 ・競争戦略/アンゾフの戦略/ポーターの戦略/PPM
4	販売戦略について概要を理解できる	・営業の方法、営業プロセスを学ぶ
5	上田の街の商店などのプロモーション戦略を調査し、分析できる	・チームで身近な商店などのプロモーションを以下の観点で調査し、分析する 店舗、品揃え、Web、観光案内所などとの連携、駅でのアピールほか
6	上田の街の商店などの分析結果、改善案をまとめて発表できる	・分析結果をまとめ、発表する
7	業界構造について理解できる	・産業構造（業界構造）はどのようなになっているか ・業界別のマーケティングの観点
8	マーケティングを活用した新製品開発プロセスを理解できる	・新商品開発、既存商品の改良プロセス ・PDCAとはなにか
9	マーケティングを活用した新製品企画を検討できる	・チームで新製品の企画を行う ・市場調査、STP、4P を活用して検討する。また、競合調査を行う
10	新製品企画を検討できる	・新製品に関するプロモーションとして、パンフレット、ポスターを作成する
11	新製品企画をまとめることができる	・新製品に関して、STP、4P、プロモーションとして検討したものを活用して、活動をまとめる
12	新製品企画発表できる	・チームごとに発表する ・聞き手は、この商品の特徴、強みなどについて伝わったかどうか、フィードバックする
13	マーケティングコンセプトと、マーケティングの社会的責任を理解できる	・マーケティングコンセプトの総括、社会的責任 ・「なぜ、自分はこの商品を購入したのか」改めて考える
14	後期試験	【後期試験】
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	18歳からのマーケティング基礎知識、1からのマーケティング ほか
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	異文化理解Ⅱ		（ NKT13K ）
講義名（コード）	異文化理解ⅡD		（ NKT13KD ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	姚 海玲	時間数	30
成績評価教員	姚 海玲	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	さまざまな国の文化・考え方を学んでお互いに教えあったり認め合うことができるようにする。
全体の内容と概要	各国ごとの冠婚葬祭・ジェスチャー・社会問題などのテーマについて意見交換や発表などをする。そうすることでお互いの文化の違いを教えあい、認め合うことができるようにする。
授業時間外の学修	日頃からいろいろな国の学生たちと交流を持ちましょう。
履修上の注意事項等	発表が多いので事前準備をしっかり行う事が重要です。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	異文化を理解する目的を改めて知る	それぞれの学科の学習目標を提示し、異文化を理解することの必要性、異文化理解できていない場合どんなことがおきるかなども含めて学習する
2	異文化摩擦について理解できる	異文化摩擦の例を示したり、学生間で異文化摩擦の体験などもシェアしながら異文化摩擦とはということについて学習していく。
3	自分をふりかえることで、コミュニケーションがとりやすくなる方法を知る	グループを作りジョハリの窓、学習スタイル、対立管理スタイル、異文化対応力について自分を数値的に理解する。
4	非言語コミュニケーションやパラ言語について理解し、考察する。	アイコンタクトの意味と受け取り方、表情が与える誤解、ジェスチャー、パーソナルスペース、時間などについてクラス内で意見を交換する。
5	様々な国での催事を知ることによってその国の文化を理解することができる	学生を国ごとのグループに分け、その国の催事について発表をするための準備をする
6	様々な国での催事を知ることによってその国の文化を理解することができる	催事についての発表
7	様々な国の生活についてわかるようになる	様々な国の人々の生活をビデオでみる。（家、街中の様子、仕事、学校の様子、休日の過ごし方など） 各自興味がある国について調べてまとめる。
8	様々な国の生活についてわかるようになる	クラスメートに知ってもらいたい自分の国での生活の様子を調べてまとめる。
9	様々な国の生活についてわかるようになる	自国の生活について国別に分かれて発表する
10	世界の衣食住の歴史について知ることができる	日本の食文化の歴史の紹介と世界の様々な国の食についてビデオで見て、自分の国と比べてみる
11	世界の衣食住の歴史について知ることができる	自国の衣食住の歴史について調べ、まとめる
12	世界の衣食住の歴史について知ることができる	衣食住発表準備
13	まとめと解説	期末テスト（衣食住の発表）
14	まとめと解説	期末テスト（衣食住の発表）
15	まとめと解説	今までの授業を通じてのまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	グローバルな時代を生きるための異文化理解入門・日本語教師のための異文化理解とコミュニケーション
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	英語資格対策Ⅱ		（ NKT13G ）
講義名（コード）	英語資格対策Ⅱ A		（ NKT13GA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	木村 みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	英検2級・準1級を取得する
全体の内容と概要	英検2級・準1級に必要な文法・語彙・熟語を習得し、それぞれの級の練習問題に取り組む。
授業時間外の学修	受験する級の語彙を増やし、問題集に取り組む
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	現在完了・過去完了を理解できる	現在完了形と過去完了形の違いを学習する/ 長文読解
2	受動態を理解できる	現在・過去・未来・助動詞がはいった受動態を使えるようにする/ 穴埋め問題
3	分詞の基本を理解できる	現在分詞・過去分詞を使った後置修飾を学習/ 長文読解
4	分詞構文を理解できる	分詞構文の構造を学び自分で文章を作ってみる/ 穴埋め問題
5	2級・準1級の熟語を覚える ①	熟語の練習問題に挑戦してみる/ 長文読解
6	2級・準1級の熟語を覚える ②	熟語の穴埋め問題に挑戦する/ 長文読解
7	作文の書き方を理解できる	作文の書き方を学習した後、過去問題集からトピックを選び実践練習
8	リスニング問題の注意点等を理解できる ①	友人との会話・ビジネス・接客等の場面での受け答え練習/ 長文読解
9	リスニング問題の注意点等を理解できる ②	電話・説明文・アナウンスで使われるフレーズ、表現を学ぶ/ 長文読解
10	熟語の復習テスト	熟語の穴埋めテストをして期末試験に備える/ 長文読解
11	各級の過去問題を時間内で解けるようになる	決められた時間内で回答できるように時間配分に注意しながら問題を解く練習をする
12	各級の過去問題を時間内で解けるようになる	決められた時間内で回答できるように時間配分に注意しながら問題を解く練習をする
13	テストの対策	熟語・作文・穴埋め・リスニングの復習をする
14	テスト	
15	テストFB	テストの解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	英検準1級過去6回全問題集（旺文社）・英検2級集中ゼミ（旺文社）
参考文献・資料等	英検2級過去6回全問題集/ 高校新演習 英文法・語法/ 英語標準問題1100
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	英語資格対策Ⅱ		（ NKT13G ）
講義名（コード）	英語資格対策Ⅱ B		（ NKT13GB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	英検3級以上に合格する。
全体の内容と概要	3級取得のための対策と問題に取り組む。
授業時間外の学修	「でる順パス単」から毎週50単語ずつ覚えてくる。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	単語601～650 3級の過去問題に挑戦する	自分の現在の實力を知り、後期に力を入れるべき箇所を知る。
2	単語651～700 / 必要な語彙・熟語が理解できるようになる	語彙を増やすために派生語・接尾語を覚える。
3	単語701～750 / 必要な語彙・熟語が理解できるようになる	よく出る熟語・フレーズを覚える
4	単語751～800 比較級が理解できるようになる	比較級を理解し、関連問題を解く。
5	単語800～850 最上級が理解できるようになる	最上級を学び、関連問題を解く。
6	単語851～900 / 現在完了形が理解できるようになる	現在完了を理解し、関連問題を解く。
7	単語901～950 3級の過去問題に挑戦する	後期最初の授業時と比較し、自分の進み具合を知り勉強法を考える。
8	単語951～1000 / 前置詞・接続詞が理解できるようになる	紛らわしい前置詞・接続詞を的確に使えるようにする。
9	単語1001～1050 / listening・作文が書けるようになる	過去問のlisteningに挑戦し聴きとれない部分を重点的に繰り返し聞く。
10	単語1051～1100 / listening・作文が書けるようになる	listeningと作文の過去問題をやってみる。
11	単語1101～1150 / 語彙・熟語・フレーズが理解できるようになる	語彙や熟語が自分の物となっているか復習テストを受ける。
12	単語1151～1200 3級の過去問題に挑戦する	listening から筆記までの過去問題を時間内で解いてみる。
13	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	英検3級過去6回全問題集、英検3級でる順パス単
参考文献・資料等	Evergreen、英検3級総合対策教本
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	色彩		（ NGM10I ）
講義名（コード）	色彩		（ NGM10IX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	1
授業担当者	長谷川 胖	時間数	30
成績評価教員	長谷川 胖	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	色とはなにか 写真・動画・デザインすべてにおいて基礎となる色彩の重要性を理解する
全体的内容と概要	無意識に色分している色彩を理解する
授業時間外の学修	色への関心をもつ
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	色彩-1	色彩とは何か
2	色彩-2	人が色をコントロールする
3	色彩原理法則	TVモニターと印刷物の比較、加色混合・減色混合について
4	写真・動画撮影に必要な事-1	色温度・ホワイトバランス 人の目は色についてとてもいい加減でありシビアなのか?
5	写真・動画撮影に必要な事-2	写真印刷の知識か
6	写真・動画撮影に必要な事-3	照明による色の表現、自然光と人工照明
7	写真映像の基礎と応用-1	色相・彩度・明度・コントラスト・前進色・後退色
8	ITパスポート試験対策 デジタル映像	デジタルカメラ イメージセンサー (CCDCiMOS)RGBRed256XGreen256XBlue=Coler16,777,216
9	写真映像の基礎と応用-2	色が人に与える影響を考える
10	実践で解る映像の世界	実践 ライティング 色温度 輝度・照度 色相・彩度・明度・コントラスト
11	実践で解る映像の仕上げと加工	実践 縮小拡大 複製 合成 色の変更 回転 変形 明度 彩度コントラスト
12	実践	実践 勉強した事をふまえて自由に撮影
13	撮影機材・画角/構成	実践 写真撮影について考える
14	メッセージの無い写真とある写真	実践
15	まとめ	まとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等		
教科書	写真サンプル集	
参考文献・資料等	制作物の資料	
備考	1眼レフカメラとスマートフォンカメラを使用する	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語コミュニケーションⅡ	（ NKT14E ）	
講義名（コード）	日本語コミュニケーションⅡA	（ NKT14EA ）	
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ビジネスで使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。又日本人同士のスピーディーな会話を聞き取ることができる。
全体の内容と概要	N1の読解、聴解の対策をしていく
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	文章の仕組みを理解するために 文章の違う点を理解する1	読解：【対比】ほかのものと比べる1 聴解：実際の試験を理解する1 課題理解・ポイント理解
2	文章の仕組みを理解するために 文章の違う点を理解する2	読解：【対比】ほかのものと比べる2 聴解：実際の試験を理解する2 概要理解・即時応答
3	文章の仕組みを理解するために 言い換えについて学ぶ1	読解：【言い換え】 聴解：実際の試験を理解する3 統合理解
4	文章の仕組みを理解するために 言い換えについて学ぶ2	読解：【言い換え】 聴解：音声の特徴に慣れる
5	文章の仕組みを理解するために 何を何にたとえているかつかむ1	読解：【比喩】 聴解：即時応答のスキルを学ぶ
6	J L P T形式の問題を解くこと ができる。	JLPT模試 JLPT模試
7	J L P T形式の問題を解くこと ができる。	JLPT模試 F B JLPT模試 F B
8	指示語を指している言葉を説明 できる。	指示語 ドリル&ドリル第一回実践問題
9	下線部に書かれていない主語や 対象語を探すことができる。	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第一回実践問題
10	それぞれの動作主を明確にし、 文の内容を説明できる。	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第二回課題理解
11	文の前夜で先で、言い換えてい る言葉を見つけることができ る。	下線部の意味を問う 第二回課題理解
12	下線部をみて、内容をつかむこ とができる。	下線部の意味を問う 第三回課題理解
13	長文を短い時間で読み解くこ とができる。	期末試験直前対策 期末試験直前対策
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	完全マスター読解N1 完全マスター聴解N1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語資格対策Ⅱ		（ NKT14G ）
講義名（コード）	日本語資格対策ⅡA		（ NKT14GA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	相手の心情を理解し、適切な言い回しをすることで、コミュニケーション力を高めることができる
全体の内容と概要	日本語能力試験N1の文法と語彙を学んでいく
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	ドラマのシナリオを読んで、登場人物の心情が理解できる 1	文法（～か、にもほどがある、ならまだしも、以前）、語彙（漢字読み第 7, 8, 9, 10 回）
2	ドラマのシナリオを読んで、登場人物の心情が理解できる 2	文法（～べくして、が だけに）、チェック、語彙（文脈規定第 1, 2, 7, 8 回）
3	ドラマのシナリオを読んで、登場人物の心情が理解できる 3	文法（～といわず といわず、たら たで、にたえない、ようものなら）、語彙（文脈規定第 9, 10, 言い換え類義第 7, 8 回）
4	ドラマのシナリオを読んで、登場人物の心情が理解できる 4	文法（～ならいざしらず、ないものか、に越したことはない）、チェック、語彙（文脈規定第 11, 12 回、言い換え類義第 9, 10 回）
5	ドラマのシナリオを読んで、登場人物の心情が理解できる 5	文法（～とはいえ、といったところだ、に ない、にかこつけて）、チェック、まとめ問題
6	送別会などで、お礼などの改まったスピーチなどができる 1	文法（～ところを、の至り、をもって、こととて、に堪えません）、語彙（文脈規定第 13, 14 回、用法第 1 回）
7	送別会などで、お礼などの改まったスピーチなどができる 2	文法（～たる、限りです）、チェック、まとめ問題、語彙（文脈規定第 15, 16 回、用法第 2 回）
8	仕事上の話題について、批判的に社内で話ができる 1	文法（～じゃあるまいし、んばかり、たらそれまでだ、ものを）、語彙（用法第 3, 4 回）
9	仕事上の話題について、批判的に社内で話ができる 2	文法（～ときたら、たところで、おうが、ろうが まいが）、語彙（用法第 5, 6 回）
10	仕事上の話題について、批判的に社内で話ができる 3	文法（～なら で、にすれば、までのことだ）、チェック、語彙（用法第 7, 8 回）
11	仕事の結果について、振り返りながら社内で話ができる 1	文法（～といったらない、ろうにも ない、まくって）、語彙（用法第 9, 10 回）
12	仕事の結果について、振り返りながら社内で話ができる 2	文法（～にしたところで、てみせます）、チェック、まとめ問題、語彙（N1 語彙総合問題）
13	小説などを読んで登場人物やその関係を理解することができる	文法（～つ つ、ともなく、べく、てからというもの）語彙（N1 総合問題）
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	TRY！日本語能力試験N1, ドリル&ドリルN1文字語彙
参考文献・資料等	
備考	